令和５年度「前期」海外研修・国政交流奨励生報告書

研究テーマ「ベトナムの日本語学校に在籍する生徒たちの学習意識を知る・ベトナムからみた日本のすがたを知る」

人間科学部社会学科
3 年
米倉帆香

１．渡航目的・研究テーマ

① 「ベトナムの日本語学校に在籍する生徒たちの学習意識を知る」
どうして日本語を学ぶのか（親の影響・自分の選択か）
日本語を学ぶ上でのメリット・デメリット
日本語学校設立目的が技能実習生の日本語教育であることから、今後技能実習生として来日することに対する当事者意識を知る

② 「ベトナムからみた日本のすがたを知る」
生まれ育った国を離れ別の国で働くということを選択した学生たちがなぜ日本を選んだか？

【ベトナムへの渡航目的】

最初のきっかけはベトナムで日本語学習者が年々増加しているというデータを発見し、なぜ学習者が増加しているのかに疑問を持った。また、日本で技能実習生として外国人が来日し、働いて生活しているという現状がある。そして技能実習生の中でもベトナムから来た人は多い。彼らは母国と日本の文化や習慣の違い、言語に苦しんでいるとのことである。このことから、技能実習生は来日前にどのような教育を受けているのか、いないのかが気になった。また慣れない環境に飛び込む技能実習生として来日する彼らに興味関心を持った。

２．渡航計画

渡航先　ベトナム　ハノイ

8 月 6 日（日）出国
8 月 7 日（月）日本語学校 A でのインタビュー
8 月 8 日（火）日本語学校 A でのインタビュー
8 月 9 日（水）日本語学校 A でのインタビュー
8 月 10 日（木）日本語学校 B でのインタビュー
8 月 11 日（金）ハノイ市街でのアンケート調査
8 月 12 日（土）ハノイ市街でのアンケート調査
8 月 13 日（日）ハノイ市街でのアンケート調査
8 月 14 日（月）帰国

＜渡航計画と渡航後の実情＞

まず日本語学校 B との連絡が渡航前につかなくなり、急遽別の日本語学校でのインタビューに切り替え、8 月 10 日に日本語学校 C でインタビューを行った。このようなことがあった為、渡航前からインタビュー先との綿密なやり取りは重要といえる。万が一に備えて別の代替案（今回の場合なら他の日本語学校）を用意する必要性があると考えられる。当初、8 月 11 日～13 日で街頭調査を行う予定であったが、調査員が 2 名であること、時間の制約、言語の問題などから十分なサンプルを集めることは困難だと判断し断念した。もしやるのであれば、調査人員を増やすことや、より長期的にアンケートを行う計画を設定すべきである。

渡航前からインタビューの受け入れ先を探すのに苦労した、ロータス日本語教育センターのように本社が日本にあると連絡のやり取りがスムーズであるが、本社が海外であると、コンタクトの取りづらさが感じられた。またインタビュー受け入れ先の事情もある為、こちらの提示したインタビューに関する日程やその他希望が通らず、断ってしまうこともあった。

３．調査・交流方法

調査形式としては日本語学校に在籍する学生への聞き取り調査である。日本語学校 A では 6 名にインタビュー（男性 1 名・女性 5 名）を実施した。一日当たり 2 人ずつ行った。

日本語学校Ｃでは４名に行った。内訳は男性３名・女性１名である。両校とも日本語学校の教師に通訳としてインタビューに同席してもらった。一グループあたり 40 分から 50 分程度時間を要した。

　インタビューの質問項目の中では対象者の個人情報を聞いている。そのため、事前に受け入れ先へ個人情報の取り扱いについて伝え、各対象者においても、特定できるような個人情報は決して外部には漏らさないこと、答えたくないことは答えなくてよいことを伝え、了承を得たうえでインタビューを実施した。また今回聞き取り調査で得られたデータは適切な処理をもって廃棄する。

【インタビューの質問項目】
１－１この学校に入学しようと思った理由はなんですか？いつ入学しましたか？
１－２この学校に対して求めていることはどんなことですか。
１－２どれぐらいの間日本語を勉強していますか？
１－３日本語のどのような部分が難しいですか？
１－４日本語を学習することのデメリット・メリットはなんですか？
１－５日本語を学んでいてよかったと思うことはありますか。それはどんな時ですか。
１－６日本語を学ぶことは楽しいですか。どんな時に楽しいと感じますか。
１－７日本語を学ぶことで辛いことはありますか。どんな時に辛いと感じますか。
２－１介護の仕事をしたくて日本語を学ぶことにしましたか？
YES　介護の仕事をしようと思ったのはなぜですか。
周りに介護をしている人はいますか?　年齢を教えてください　性別を教えてください
誰が誰を介護していますか？それは仕事としてですか？それとも家族など身内のためのものですか？

NO　どうして日本語を学んでいるのですか？

２－２介護の経験はありますか？いつ、どれくらい、誰を介護していましたか。
２－３技能実習制度は知っていましたか？いつから知っていましたか？どのように知りましたか？周りでこの制度を利用している人はいますか？誰が利用していますか？その人は日本にもう行きましたか。経験を聞いてどのように感じましたか？
２－４ベトナムではなく日本で働こうと思ったのはなぜですか。
２－５周りの人からはどのような反応をされましたか。
２－６日本で働くことにどんな期待をしていますか。
２－７日本で働くことへの不安はありますか。どんな不安がありますか。
３－１家族について

今一緒に住んでいるご家族は何人ですか。続柄（全員について）お仕事を教えてください。進学や就職で今一緒に住んでいない家族については居住地も教えてください。

４－１生活史（生年月日・学歴・就労暦・介護歴）

５－１日本に行ったことはありますか。いつ行きましたか。どのような目的で渡航しましたか。

６－１自由質問

・日本に住み続ける予定ですか？それともベトナムに帰りますか？

・日本語をどこまで話せるようになりたいですか？

・日本語以外で勉強している外国語はありますか？

※2-1．2-2 に関しては日本語学校 C では尋ねていない。日本語学校 C で学ぶ学生の来日後の勤務先は介護系でないということだったため、尋ねなかった。

４．調査・交流結果

インタビューを通してさまざまなことが明らかとなった。

1 で聞いたのは主に学習意識である。結果として日本語の困難な部分として漢字・ききとりが困難であるとほとんどの人が答えていた。しかし、日本語の勉強を面白いと感じ、辛いことはないと答える学生もいたように、難しいが、学習を楽しんでいることが感じられた。日本語の学習歴をきいたところ、対象者全員、日本語を勉強し始めたのは入学してからであり、それまでは全く勉強したことはないと答えていた。技能実習制度については一名を除き、知っていると答え、どのように制度を知ったのか尋ねたところ、入学する前に大学やインターネットで情報を手に入れていた。いずれ日本へ行き技能実習生として働くことに対し、家族や友人は応援してくれていると答えていた。反対もなかったということであった。ベトナムではなく日本で働こうと思った理由として、日本の収入の高さを挙げる人が多かった。地方出身者の対象者が多く、両親は農業で生計をたてている家庭で育った学生が多かった。日本語学校 A の学生は介護の仕事が好きと答える学生が多かった。また医療系の大学を出ている人もいた。日本語能力試験一級の取得を目指したいなど学習に対する意欲が高い発言をする学生もいた。日本に行くことに期待を持つ学生が多く、不安は今にところないと答える学生もいた。一方で日本人が話すことが聞き取れないかもしれないという不安を抱える人もいた。調査対象者の中には入学前に 2 年間兵役をこなしていていた人（ベトナムには男性に兵役がある）もおり、軍隊を除隊後に学校へ入学したということであった。まとめとしては日本で働くことに対しポジティブな意見を持っている人が多く、学習にとても意欲的な態度をもった学生であった。

【インタビューを通して感じたこと・振り返り】

インタビューは教師による通訳を通して行われたが、通訳のところで質問の意図が上手く伝わらず、こちらが求める回答を得られないことがあった。その際は少し聞き方を変えるほか、より易しい日本語にして伝えるように努力した。また日本人ではなく、非ネイティブな対象者へ日本語で聞き取りを行ったため、質問文はよく吟味する必要があると考えられる。こちらの聞きたいことをなるべく理解してもらえるような質問文の作成が重要であろう。また生徒と教師の中が非常に近く、時折会話している様子も見られた。

５．今後について

渡航から１か月以上たち、報告書をまとめる上で改めて考えたことはインタビューの難しさである。質問文の内容を充実させ、設定したテーマを明らかにでき、かつ相手にもわかりやすい質問文を作成することの困難さを感じた。またより研究において設定した問いを明らかにできるような、聞き取り調査における質問項目を検討すべきだったといえる。

技能実習生として少なくとも１年以内には来日する学生への聞き取り調査であった。今は予想できなくとも実際に日本で暮らすことで生じる困難などもあるといえる。日本で働くことへのポジティブな意見は変化するのかしないのか、それらを知る為にも実際に生活している技能実習生の実態を知ることも重要だと考えられる。

インタビュー対象者であった学生とインタビュー終了後に話す機会があり、交流を深められ、ベトナムに友人ができたことは予期していない出来事であったため、思い出深い。出自は異なるが同じ若者という共通点で集まり、たくさんの話ができたことは良い経験となった。また文化、常識、慣習、言語など母国とは何もかもが異なる場所に行ったという経験は自分の糧になったように思う。